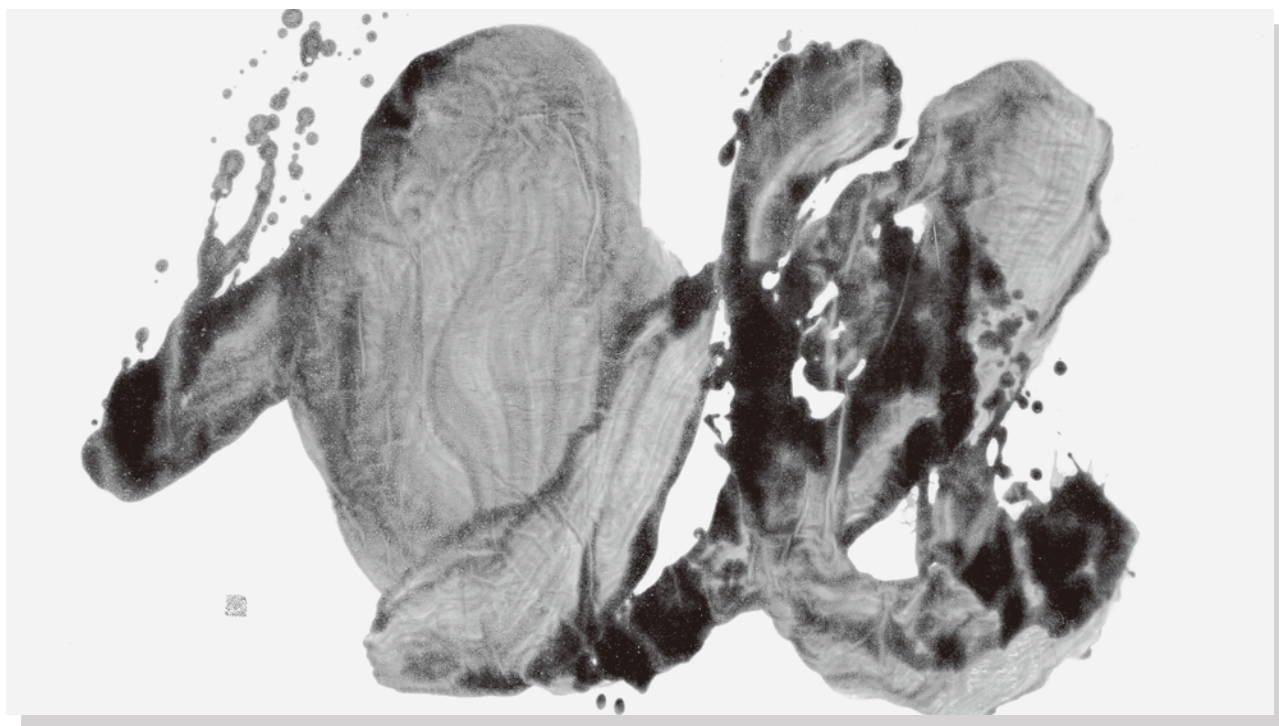


第1回中野北溟記念 北の書みらい賞展

未来の北海道書道界を担う書家を育てることを目的に創設した中野北溟記念北の書みらい賞
大賞、奨励賞、候補の計23人の書作品を紹介します



大賞(奨励金50万円)

北川 和彦(剣淵町)
『塊』(87×154)

とき

2021年7月29日～8月3日

ところ

札幌・道新ぎやらりー

主催：特定非営利活動法人北の書みらい基金 / 共催：北海道新聞社

奨励賞 (奨励金各20万円)



入船心太朗 (旭川市)
『星の逢瀬』 (121 × 121)



小林 聖鳳 (鹿追町)
『興酣』 (180 × 70)



天満谷貴之 (函館市)
『騁懐』 (175 × 75)

選考会推薦作品 (作家名 50 音順)

| 氏名 | 在住地 | 作品 | 部門 | 縦×横 cm |
|-------|-------|---|----------|-----------|
| 池田 弥希 | 苫小牧市 | 五言二句 草枯鷹眼疾雪 盡馬蹄輕 | 漢字 | 175 × 55 |
| 石井 千賀 | 鷹栖町 | 一瞬の煌めき | 詩文書 | 88 × 158 |
| 磯波 水鈴 | 函館市 | 唯一無二の蕾 | 詩文書 | 120 × 120 |
| 入船心太郎 | 旭川市 | 星の逢瀬 | 詩文書 | 121 × 121 |
| 大懸遼一郎 | 旭川市 | 狗 | 墨象 | 70 × 135 |
| 押上万希子 | 滝川市 | 「沙羅双樹」 沙羅双樹 しろき花ちる 夕風に 人の子思ふ 凡下のこころ (与謝野晶子) | かな | 106 × 106 |
| 金谷 紅麟 | 函館市 | 一驚の摸よ | 詩文書 | 240 × 60 |
| 北川 愛子 | 札幌市 | 美しい今 (釈文 暗く長い土の中の時代 …) | 詩文書 | 136 × 69 |
| 北川 和彦 | 剣淵町 | 塊 | 墨象 | 87 × 154 |
| 小林 聖鳳 | 鹿追町 | 興酣 | 漢字 (大字書) | 180 × 70 |
| 笹木 聖菜 | 上富良野町 | 海の幽霊 | 詩文書 | 135 × 70 |
| 清水 謙語 | 札幌市 | 半山残月露華冷 兩岸野風蓮萼香 | 漢字 | 240 × 60 |
| 下村 美穂 | 札幌市 | 「夏の虹」 たでの花簾にさすと寐ておもふ 日のくれ方の夏の虹かな (与謝野晶子) | かな | 224 × 53 |
| 白石 弥生 | 帯広市 | K I ・ I ・ TO ・ 2020 | 前衛 | 121 × 121 |
| 高橋 竜平 | 札幌市 | 三尊 | 漢字 (大字書) | 120 × 120 |
| 高橋 柳泉 | 幕別町 | 雪どけ | 前衛 | 121 × 121 |
| 天満谷貴之 | 函館市 | 騁懐 | 漢字 (大字書) | 175 × 75 |
| 土井 一剛 | 札幌市 | 雪ふるる 比良の高嶺の 夕暮れは 花の盛りに すぐる春かな | かな | 224 × 53 |
| 西田 真洲 | 美唄市 | 佳妙 | 漢字 (大字書) | 70 × 175 |
| 濱波 裕介 | 苫小牧市 | 金樽開 | 漢字 | 176 × 56 |
| 宮崎万由有 | 愛別町 | 無門 | 漢字 (大字書) | 136 × 76 |
| 守屋 杏 | 登別市 | 刻・積～刻まれ積もりゆくもの～ | 前衛 | 148 × 241 |
| 吉田 晴賀 | 札幌市 | 窓 | 漢字 (大字書) | 118 × 118 |

中野北溟記念北の書みらい賞

北海道は書道が盛んな地域です。近代詩文書の創始者金子鷗亭(松前町出身)や東宮御所書道御進講を務めた桑原翠邦(帯広市出身)をはじめ、日展、毎日展、読売展の国内公募展で活躍する書家を輩出するとともに、多くの指導者が育ち、生涯教育の場として、多くの市民が書を学んできました。

少子高齢化が進み、書道人口が減少していますが、高校・大学生や卒業後も制作を続け、道内外の公募展に作品を発表し、優秀な成績を取っている若い人たちが存在します。

そのような未来の北海道書道界を担う書家の育成と支援を目的に、北の書みらい基金(2019年設立、理事長村田正敏)は、日本を代表する書家である中野北溟氏の功績を記念し、中野北溟記念北の書みらい賞を創設しました。

本賞は、北海道在住の50歳未満の書家が選考会の前年1年間に発表した作品を選考対象としています。主催者が委嘱した選考委員が今年2月までに23人の候補作品を推薦しました。7月28日、札幌市内で行われた選考会では、20代前半から40代後半まで道内各地の作家による漢字、かな、詩文書、前衛など多様な候補作品が会場に展示され、6人の選考委員の審美眼により、大賞、奨励賞が選ばれました。

本賞は今後も毎年開催していきます。本賞が若い書家たちの励みとなり、北海道書道界が発展することを期待します。

選考委員長

武田 厚氏(美術評論家、多摩美術大学客員教授)

選考委員(50音順)

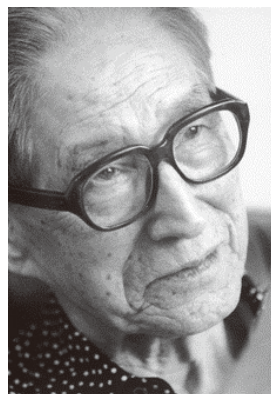
阿部 典英氏(公益財団法人北海道文化財団副理事長)

笠嶋 忠幸氏(公益財団法人出光美術館上席学芸員)

古家 昌伸氏(北海道新聞社編集局文化部編集委員)

齊藤 千鶴子氏(北海道立近代美術館主任学芸員)

佐藤 幸宏氏(北海道立近代美術館前学芸副館長、似鳥美術館顧問)



中野北溟氏

日本を代表する書家。毎日書道会最高顧問、創玄書道会最高顧問、日展会員、北海道書道連盟顧問、天擘社代表。札幌市在住。

1923年7月31日、北海道苫前郡焼尻村(現在の羽幌町)生まれ。北海道第三師範学校(現在の北海道教育大学旭川校)卒業。豊富、稚内、旭川、札幌で教員を務めながら毎日書道展、北海道書道展などに出品し、審査会員として活躍する。

79年札幌市立札幌中学校校長を早期退職し、書に専念、海外でも作品を発表する。90年北海道新聞文化賞受賞、99年毎日芸術賞を岡井隆氏、河野多恵子氏、高倉健氏、蛭川幸雄氏らと受賞。2005年東京日本橋三越、09年北海道立近代美術館で個展開催。

長年、日展、毎日書道展、創玄展、現代書道二十人展など全国トップクラスの書展で作品を発表するとともに、北海道書道展、北海道書道連盟では理事長など役員を歴任し、北海道書道界の発展に寄与してきた。

中野氏は師の金子鷗亭氏からの上京の誘いを断わり、札幌で書活動が続けてきた。太平洋戦争中の一時期(久留米予備士官学校)を除き、北海道を離れることがなかった。スポーツの才能にも恵まれ、テニス選手として国体に出場している。

今年4月の北海道書道展(札幌市民ギャラリー)、7月の毎日書道展(国立新美術館、9月22日~26日北海道展開催)で作品を発表するなど98歳を迎える現在も、制作や後進への指導など精力的に書活動に行っている。